

奥羽大学報



講堂から銅像を見ての紅葉

目次

奥羽祭／平成20年度奥羽大学薬学部推薦入学試験…	2
平成20年度科学研究費補助金申請状況／オープンキャンパス…	3
学内環境の整備…	4
平成19年度第2回、第3回奥羽大学歯学部 OSCE 評価者養成 ワークショップ／(歯)第2回模擬患者養成研修会…	5
(薬)早期体験学習(工場見学)／(薬)公開セミナー「特別講演会」…	6
保護者懇談会／(薬)企業採用担当者との懇談会…	7
校友会活動記録／第44回奥羽大学歯学会…	8
国際学会／国内研修を終えて…	9
附属病院…	10
大学図書館探検／私が薦める一冊の本…	12
余滴…	13
公開講座特集…	14
同窓会…	16
同窓生のひろば…	17
新任教授紹介…	18
人事／慶弔…	20
郡山自転車ロマン紀行(第4回)…	21

116

奥羽祭

10月13日(土)、14日(日)に第15回奥羽祭を無事に開催することができた。今年で実行委員長は2年目であるが「昨年は先輩方の支えがあったが、今年は自分が皆を引っ張らなくてはいけない。経験をいかし、より良い奥羽祭を創ろう」と言い聞かせる日々もあった。やはり自信よりも不安が大きかったが、これまで一緒に活動してきた学友会全員の姿を思い返すと「このメンバーでなら素晴らしいものが描ける」と思うようになり不安が徐々に消えていった。皆が一丸となり、大きな問題もなく奥羽祭を迎えることができた。当日は多



くの笑顔が見られ、お互いがとても楽しく取り組み無事に終えることができた。

奥羽祭終了後、目に涙を浮かべながら全員で感動を分かち合った。今の学友会ならではの奥羽祭だったと思う。メンバーにも恵まれ、これまで学友会で活動できたことを本当に嬉しく思う。これを通して皆が成長でき、絆も決して揺るぎないものになった。奥羽祭を創るにあたり協力してくださった多くの関係者の方々に感謝したい。

(実行委員長 佐々木 幸広 薬3年)



平成20年度奥羽大学薬学部推薦入学試験

(6年制) [定員/200名 募集人員/200名]

区分	推薦入試 二期	推薦入試 三期
募集人員	25名	25名
出願資格	<ul style="list-style-type: none"> • 本学薬学部を専願し、高等学校又は中等教育学校を平成20年3月卒業見込みの者で、数学、化学、英語の各評定値がC段階以上であり、出身学校長の推薦を受けた者。 • 本学薬学部を専願し、高等学校又は中等教育学校を平成18年3月及び平成19年3月に卒業した者で、数学、化学、英語の各評定値がC段階以上であり、出身学校長の推薦を受けた者。 	
出願期間	平成19年12月10日(月)～平成19年12月21日(金)	平成20年1月7日(月)～平成20年1月24日(木)
試験日	平成19年12月26日(水)	平成20年1月26日(土)
試験科目	面	接
試験場	本	学
合格者発表	平成19年12月28日(金)	平成20年1月28日(月)
検定料	30,000円(銀行振込・現金持参)	
手続期間	平成19年12月28日(金)～平成20年1月11日(金)	平成20年1月28日(月)～平成20年2月7日(木)
学費	合計 2,400,000円	<ul style="list-style-type: none"> 内訳 • 入学金 600,000円 • 授業料 1,800,000円

平成20年度科学研究費補助金申請状況

文部科学省・日本学術振興会による科学研究費補助金とは、あらゆる学術研究の発展を目的とする独創的・先駆的な研究に対する助成金である。今回、平成20年度の公募があり、本学から102件の新規申請を行った。申請の内訳は、右表の通りである。

今回の申請から基盤研究（A、B）、若手研究Aに続き萌芽研究も電子申請システムで応募できるようになり、紙媒体での書類提出が不要になった。

応募方法が簡素化されたことにより、今回は萌芽研究の応募が増加したと思われる。

なお、採択結果の通知は来年4月以降になる。
(設楽 民雄)

研究種目	目的・内容	助成額	H20 応募数	H19 応募数	H18 応募数	H17 応募数	H16 応募数
基盤研究 (A)	一人または共同で行う独創的・先駆的研究	2千万～5千万		1	1		
基盤研究 (B)		5百万～2千万	4	3	3	5	5
基盤研究 (C)		5百万以下	41	38	36	27	20
萌芽研究	独創的発想、特に意外性のある着想に基づく萌芽期の研究	5百万以下	14	11	6	2	3
若手研究 (A)	37歳以下、一人で行う研究	5百万～2千万					3
若手研究 (B)		5百万以下	43	49	39	36	28
合 計			102	102	85	70	59

オープンキャンパス

5月から毎月開催しているオープンキャンパス。9月は22日(土)に、学食体験に始まりキャンパス見学、実習体験、模擬授業と続く従来通りの内容で、そして10月は、奥羽祭の開かれている14日(日)に個別進学相談会を、それぞれ開催した。20年度入試も間近に迫り、参加

された高校生あるいはご父兄の表情は真剣そのものであった。

なお、今年度はさらに下表に示した内容で、12月と来年1月にもオープンキャンパスを実施する。

(榊原 直文)

オープンキャンパス 12/9(日)、1/13(日)		
時間	歯学部	薬学部
10:00~10:30	学部紹介：特色と教育方針 (歯学部長 天野義和 教授) 一般選抜入試：昨年度の結果及び今年度の傾向と対策 (学生部長 鈴木陽典 教授)	学部紹介：特色と教育方針 (薬学部長 永井正博 教授) 一般選抜入試：昨年度の結果及び今年度の傾向と対策 (学生部長 野島浩史 教授)
10:35~11:15	キャンパス見学	
11:20~12:20	実習体験	実習体験
	「コンピューターで歯医者さんを体験しよう」 (齋藤高弘 教授) 「歯医者さんの道具を体験しよう」 (清野晃孝 准教授)	12/9「時間と空間のリズム反応」 (柏木良友 准教授) 1/13「血液型物質を知ろう」 (高橋朋子 教授)
12:25~13:15	学食体験	
13:20~15:00	個別進学相談	

学内環境の整備

学内通行の安全に配慮するとともに、快適な学生生活に寄与するため、記念講堂南側に面した通路の改修工事を行った。

この改修では、正門より記念講堂に至る坂道の掘り下げと通路の拡幅を行い広い視界を確保、また、歩道の取り付けにより歩行者の安全を図った。併せて全面舗装改修を行い、

先に完成した第3講義棟や庭園と合わせて美しい教育環境となった。

さらに、外来者の便宜を図るため、正門に「学内施設案内図」、学内に「施設案内表示板」を設置。それらは来訪者から好評を得ている。

(相楽 隆勇)



正門に設置された案内図



正門側からのぞむ第3講義棟と歩道



正門よりのぞむ案内板



施設案内表示板



拡幅された通路

平成19年度第2回、第3回奥羽大学歯学部 OSCE 評価者養成ワークショップ

本年度第2回ならびに第3回の OSCE 評価者養成ワークショップが奥羽大学附属病院棟において、それぞれ9月29日(土)、30日(日)ならびに10月6日(土)、7日(日)に開催された。今回は第1回に引き続いて医療系大学間共用試験実施評価機構から歯学系 OSCE の FD 委員 (俣木志朗 東京医科歯科大学教授〈第2回・第3回〉、関本恒夫 日本歯科大学新潟生命歯学部教授〈第2回・第3回〉、大川周治 明海大学歯学部教授〈第2回〉、川上智史 北海道医療大学歯学部教授〈第3回〉、奈良陽一郎 日本歯科大学生命歯学部教授〈第2回〉、中嶋正博 大阪歯科大学准教授〈第2回〉、大山 篤 東京医科歯科大学助教〈第3回〉、「第2回は機構派遣者として来校」) の先生方を派遣していただき、タスクホースとして指導にあたっていただいた。

第2回は参加者の教員28名が4グループに分かれて、基本的技能・基本的臨床技能4課題について、また第3回は参加者の教員26名が4グループに分かれて、医療面接、説明・指導の4課題について、課題文・評価シート・評価マニュアルのすり合わせを行った後、それらを用いて診療室を会場として OSCE を実施し、結果の分析を行った。また全体討議を通じて、問題点の抽出や評価の標準化に向けたディスカッションがなされた。第2回目のワークショップからは運営面でも OSCE 会場に OSCE タイマーを設置したり、各ステーションの試験会場(環境)の整備の工夫などの対応もなされ、FD 委員よりこうした改善点に対する評価も受けた。さらに俣木先生より教員の熱心かつ活発な討議を通じ、評価者養成においては確実に効果が現れたとの講評をいただいた。本年度開催された3回のワークショップは、今後本学で取り組む OSCE のために大変有意義なものとなった。

(鈴木 康生)



第2回評価者養成ワークショップ

(歯) 第2回模擬患者養成研修会

本年度の OSCE 特別実施に向け、OSCE 委員会を中心として模擬患者養成を急ピッチで進めている。模擬患者候補者のみなさんを対象に、8月の模擬患者養成講習会に始まり、毎月1回ずつ模擬患者養成研修会を実施してきた。去る10月19日(金)の夕方には、天野義和歯学部長はじめ模擬患者養成連絡会のメンバーを中心とする学内スタッフ十数名の協力のもと、16名の模擬患者候補者の方々を迎えて第2回研修会が開催された。

共用試験実施責任者の鎌田政善教授による OSCE 概説、佐々木重夫准教授による医療面接セミナーに続き、臨床研修室に場所を移して医療面接についてのロールプレイを行った。模擬患者養成連絡会の各委員は、模擬患者さん2名ずつに対して約40分間にわたり医療面接の模擬受験生役を務めた。ロールプレイ後の全体討論では、模擬患者さんたちからの熱心な質問が相次ぎ、予定時間を約20分延長して研修会を終了した。

(山森 徹雄)



(薬) 早期体験学習(工場見学)

薬学部1年生の早期体験学習の一環として、毎年製薬会社の工場や研究施設の見学を行っている。

本年は10月26日(金)の3・4限を利用し、インスリン製剤を主力品に持つ大手メーカー、ノボノルディスクファーマ株式会社の郡山工場を見学した。参加者は18名であった。本工場は郡山市にあることから昨年、今年とご協力をいただいている。

当日午後、小雨の中、バスにてノボノルディスク社郡山工場に向かった。工場建物に入るとすぐ、用意された白衣に着替え、研修室に案内された。工場の説明を受けた後、場内を見学。主に注射薬製剤を取り扱う工場であること、また、ISO14001を取得している事業所であることから、管理棟・工場内は整理が行き届き、大変綺麗な会社である。ロボットが頑張る梱包工場、検査室、原体搬入場所、品質管理試験室等を見学した後、再び研修室にもどり、最後に品質の保証についてのミニ講義を品質保証部長より直々にいただき、有意義な研修となった。

(野沢 幸平)

**(薬) 公開セミナー「特別講演会」**

奥羽大学薬学部公開セミナー「特別講演会」が10月3日(水)および10月24日(水)に開催された。10月3日(水)は筑波大学大学院人間総合科学研究科教授の幸田幸直先生による「病院薬剤師は今」の演題で、薬学部6年制教育開始に伴い、従来の4年制のカリキュラムと6年制での新カリキュラムとの違いについて説明がなされた。それに伴う新カリキュラム学生指導をおこなう病院側の受け入れ体制の現状や、指導薬剤師養成の現状、薬剤師の2007年問題と病院薬剤師の需要・供給関係についての解説があった。さらには日本病院薬剤師会の実務実習指導薬剤師の要件および養成の現状などに及ぶ、幅広い話題について講演が行われた。

また、10月24日(水)は昭和大学薬学部病態生理学教授の木内祐二先生により、「動き出した薬学教育6年制—モデル・コアカリキュラムと長期実務実習の目指すもの—」の演題で、薬学部6年制教育下で何が薬学教育に求められているのか、またそれに対応した薬学教育モデル・コアカリキュラムと実務実習モデル・コアカリキュラム作成の目的および履修内容、従来の見学型実習から参加型実習への転換に伴う共用試験(CBTならびにOSCE)の意義が解説された。さらに、昭和大学薬学部で行われている文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成プログラム」に採択された取り組みについても紹介があった。木内先生は実際にプログラム作成に参加されている立場から、具体的かつ示唆に富んだ講演がおこなわれ、活発な質疑応答が交わされた。

(小池 勇一)

保護者懇談会

歯学部

歯学部保護者懇談会が10月13日(土)に行われた。5月に続いて今年2回目の開催で、219名のご父兄が来校された。前期定期試験の結果や出欠の状況をふまえての説明がクラス担任から個別になされ、面談は和やかな中にも真剣な雰囲気だった。

当日は同時に大学祭が行われており、面談に臨んだご父兄は、学生の催すイベントにも参加している様子が見られた。

(白土 孝)



薬学部

10月27日(土)10時30分から、322講義室において薬学部3年生保護者の全体懇談会が開催され、100余名が出席した。

現3年生は卒業まで1年4ヶ月余りとなり、将来に対する目標が明確に、そして保護者の方々も心配になり始める時期になったことから、現況説明を行った。①3年次の今後と4年次のカリキュラム、②国家試験対策、③就職指導、④卒業準備委員会の発足についての4点である。①は特別実習の内容と実務実習(病院4週間と調剤薬局2週間)の実施時期、②は11月から開始する補習授業と4年次の総合薬学演習の概要、③は11月5日(月)、6日(火)に実施の病院・薬局・企業等の採用担当者と3年生との懇談会、④は委員会の活動内容と主旨の説明をした。

保護者の皆様からは、卒業判定に関する質問や国家試験対策、就職等についての多くの

質問や意見をいただいた。なかでも、卒業準備や国家試験対策について全面的に協力したいとの力強い言葉には、心より感謝申し上げる次第である。大きな責務を我々が負っていることをあらためて感じさせられた。

(野島 浩史)

(薬)企業採用担当者との懇談会

11月5日(月)、6日(火)の2日間に亘り、カフェテリア・メモリーにて薬学部3年生と企業採用担当者との懇談会が開催され、5日(月)は企業51社(79名)・学生180名、6日(火)は企業50社(75名)・学生150名が参加した。

学生達はこれまでのガイダンスで学んだ身だしなみやマナーを実践し、また事前に企業研究を行い、積極的に採用担当者に質問をしていた。

実際に来年度の採用について話が進んだ学生もおり、非常に活気と意欲に満ちた懇談会となった。

(安藤 政明)



学友会活動記録

○サーフィン部

第24回全日本医科歯科学学生サーフィン選手権大会

平成19年7月31日(火)～8月5日(日)

宮崎県日向市金が浜海岸

Cクラス準優勝 歯学部5年 杉本 光平

○アーチェリー部

チェリーカップ

平成19年9月22日(土)～23日(日)

三春町貝山地区多目的運動広場

男子シングルラウンド

4位 歯学部2年 池田 敏和

5位 歯学部5年 小松 泰典

女子シングルラウンド

2位 歯学部1年 上野 理恵

3位 歯学部1年 安積 優衣

○ラグビー部

第46回郡山市民体育祭

平成19年10月21日(日)

磐梯熱海サッカー場

一般の部

奥羽大学 優勝



サーフィン部



ラグビー部

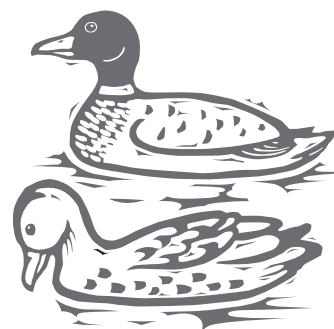
第44回奥羽大学歯学会

標記学会が11月10日(土)に本学第2講義棟で開催された。午前9時25分より天野義和会長の挨拶で始まり、一般講演13演題、症例展示4演題、国際学会参加報告2演題の発表が行われた。発表内容は、学位講演6演題、基礎系2演題、臨床報告4演題、教育系1演題で、活発な質疑応答が行われた。

特別講演には、講師として公立大学法人福島県立医科大学学長兼理事長の高地英夫先生をお招きし「福島県立医科大学のこころみ」のタイトルで約100名の聴講者のもと講演が行われた。

講演では、福島県立医科大学が目指す研究、医学教育、医療面について詳細に解説された。特に福島県に限らず世界的視野からの現在のさまざまな医療、医学教育の問題点、改善策が挙げられた。医療系大学として本学の理念とリンクする箇所も多数見受けられ、教育・臨床・研究面の取組み方について大変参考になる貴重な講演であった。

(福井 和徳)



国際学会

第4回国際痒みワークショップ 4th International Workshops for the Study of Itch

本学会は2年に1回開催されており、今回はアメリカのサンフランシスコで開催され、痒みの神経科学的精査や分子薬理的な解析のみではなく、QOLやストレスとの関連性も含めた、多角的な討論がなされた。さらに、痒みの定量化を可能とするべく、この学会が中心となって作成された痒みの分類とランク付けに関する原案も提唱された。

今回の学会では、本学歯学部口腔病理学研究室(山崎章教授、伊東博司准教授)、および本学薬学部の野島浩史教授との共同研究である「Electron microscopic study on sprouting of nerve fibers into epidermis of dry skin mice」と、本学薬学部の野島浩史教授、藤井祐一准教授、大越絵実加助手ならびにワシントン州立大学との共同研究による「Cessation of repeated morphine enhance histamine- and serotonin-induced scratching responses in mice」の2演題を発表した。前者は乾皮症モデルマウスにおいて、表皮へ伸展した神経線維種を電子顕微鏡を用いて特定したものであり、後者はモルヒネ依存マウスに対する投薬中止が痒み反応を亢進させることを明らかにしたものである。

これらの研究は緒についたばかりであり、今後の研究の方向性を考慮するに際して、多くの研究者と討論を行い、交流を深めることができたことは非常に有意義であった。日程の都合上、サンフランシスコの町を満喫することができなかったのは心残りではあるが、研究を進めるにあたり新たな知見・アイデアが得られたことが何よりの収穫であった。

(阿部 賢志)

国内研修を終えて

2007年4月1日より9月30日までの6ヶ月間、山形大学医学部附属病院薬剤部の研修生として研修する機会に恵まれた。

山形大学医学部附属病院は病床数604床、薬剤師22名(助手6名)の施設である。そこで調剤業務をはじめ、薬品管理業務、医薬品情報(DI)業務、薬剤管理指導業務、無菌製剤・高カロリー輸液の調製、抗がん剤の調製、特定薬剤治療管理業務(TDM)といった病院薬剤師の業務全般、さらには、栄養サポートチームへの薬剤師の参画といった専門性およびチーム医療について研修させていただいた。特に薬剤管理指導業務では病棟担当薬剤師9名に同行し、それぞれの診療科(精神科、整形外科、第一内科、第二内科、第一外科、第二外科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、眼科)での薬剤管理指導業務の見学および実際の指導を行った。「百聞は一見に如かず」という諺があるが、まさにそのとおりであり、薬剤師として患者に医療を提供することの難しさを痛感した。しかし、実際の現場と言われる医療機関での薬剤師の役割を学ぶことができ、大変充実した研修ができた。

また、研修期間中いくつかの薬系大学の4年生の1ヶ月実習の学生と一緒にいる機会があった。大学は学生を医療機関に実習生として送り出す立場にあるわけだが、その際どのような学生を送り出す必要があるのか、医療機関ではどのような実習がなされているのかということ学ぶことができた。

今後、病院での研修をもとにさらに勉強を重ね、医療現場で必要とされる薬剤師の育成を目指して、学生の指導にあたっていきたい。

(渡辺 由香)

附属病院

平成19年度歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

平成19年度の歯科医師臨床研修指導歯科医講習会は9月22日(土)・23日(日・祝)に郡山市熱海町の「清稜山倶楽部」ならびに奥羽大学の厚生施設である「無垢苑」において開催された。例年、主催は(社)福島県歯科医師会で、奥羽大学歯学部が共催して開催していたが、今年度は財団法人歯科医療研修振興財団が共催に加わった。今回はチーフタスクフォースとして元厚生労働省医政局歯科保健課歯科医師臨床研修専門官で、現在東京歯科大学社会歯科学研究室講師の平田創一郎先生を、また特別講師として厚生労働省医政局歯科保健課の歯科医師臨床研修専門官である杉戸博記先生を迎え、受講者22名、スタッフ17名での開催となった。

開講式では、主催者である西須栄治県歯科医師会副会長の挨拶に続き、歯科医療研修振興財団の中原泉理事長から挨拶をいただいた。その後、スタッフ紹介および参加者による自己紹介を行い、1日目のスタートをきった。

2日間の講習会で、7つのセッションと2つの講演を取り入れ、実時間16時間といった非常に厳しい講習会であったが、参加者からは大変有意義であったとの感想をいただいた。閉講式では奥羽大学歯学部附属病院の清野和夫病院長から参加者一人ひとりに修了書が手渡され、無事に終了することができた。



今回の講習会を受講された先生方が、各地域において臨床研修歯科医の指導に参画されて、より良い卒後研修制度が確立することを願う次第である。

(鎌田 政善)

社会保険医療歯科集団指導

9月25日(月)16時より病院棟5階臨床講義室において、平成19年度社会保険医療歯科集団指導が開催された。平成18年度新規登録歯科医師と平成19年度臨床研修歯科医師を含めた歯科医師165名、医療職・事務職員37名の202名が出席した。講師として福島県社会保険事務局の向井浩指導医療官を迎え、歯科医師法と保険医療機関および保険医療養担当規則の概要、保険診療および保険請求の取り扱いについて指導と説明を受けた。

患者さんに質の高い歯科医療を提供するためにも、歯科医師法や療養担当規則に則り、適切な説明・指導を行うことが大切である。同時に、日常診療における種々の確認や診療録への適切な記載など、重要事項が再認識された。

また、最後に「公的年金」についての説明があり、年金保険料支払いに関して、相互扶助の観点から理解と協力要請があった。

夕方の多忙な時間にもかかわらず、公務出張者を除くほとんどの関係者が出席し、社会保険医療に対する理解を深めた。

(島村 和宏)

医療安全研修会

10月11日(木)17時30分から18時30分まで、附属病院平成19年度第2回医療安全講習会が開催された。今回は、神奈川県平塚市で接骨院をされている菅侯弘道先生と奥様の文子様をお招きして、「医療事故被害者家族の願い—笑美ちゃんの死を無駄にしないために—」と題してご講演をいただいた。

菅侯先生ご夫婦は、平成12年に東海大学医学部附属病院で、点滴に栄養剤を誤注入されるという医療ミスで愛娘の笑美ちゃん(当時1歳半)を亡くされた。大きな悲しみを乗り越え、現在、医療事故市民オンブズマン・メディア、患者のための医療ネット、医療の良心を守る市民の会などに属し、医療事故の被害者の立場から医療安全推進活動を積極的に行われている。

講演内容は、はじめは奥様が、笑美ちゃんのご誕生から事故前までの生い立ちをスライドで紹介し、その後、菅侯弘道先生が、生前の笑美ちゃんのビデオを背景に、当時の事故が詳細に記録された書籍『大学病院にメス』(講談社)を朗読しながら事故の様子を説明され、その後、医療事故被害者の立場から大学病院への提言をスライドでまとめられた。講演には歯学部附属病院教職員をはじめ219名が参加し、会場全体が悲しみに包まれ、全員が真剣に、そして時折涙して聞く姿も見られた。何がために医療安全を実践するのかを痛感し、医療の初心に戻ることができ、医療安全への意識を高めることができた。

(山崎 信也)



平成19年度第2回研修歯科医派遣式

11月2日(金)、平成19年度歯科医師臨床研修Aプログラム22名中、後期派遣臨床研修歯科医13名の協力型臨床研修施設派遣式が挙行された。13名は呼名起立後に清野和夫病院長より「ここにいる後期派遣の研修医は前期派遣の研修医よりも学内にて研修経験を多く積み、また、前期派遣研修歯科医からの情報も得て、不安が少なく期待が大ききことと思います。社会人的常識を身につけ、身だしなみ、健康に気をつけるよう」訓辞があった。

続いて鎌田政善臨床研修プログラム委員長より、複合型歯科医師臨床プログラムの特色と修了認定について説明があり、杉田俊博臨床研修プログラム副責任者より協力型臨床研修施設での研修心得についての訓話があった。その後、13名の研修医各々が派遣先施設の所在県名と決意を述べた。後期派遣の研修医の研修先は13施設(宮城県1、福島県5、栃木県2、東京都3、三重県1、鳥取県1)で、その期間は4ヶ月間、来年の2月29日(金)までとなっている。

(高録 伸郎)



大学図書館探検

福島県内大学図書館連絡協議会では、平成18年度から地域の人々に各大学および大学図書館の理解を深めてもらうことを目的に、企画事業を実施している。今年度の企画名は「ぶらりライブラリー 大学図書館探検」。バス1台を借り切ったツアーで、10月26日(金)郡山市の日大工学部、郡山女子大、奥羽大の順に図書館を見学した。福島県、福島県教育委員会、郡山市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社が後援、本学図書館が企画・運営に当たった。

参加者は一般社会人、図書館勤務者など約40人。昼食は日大の8階スカイラインレストランを利用、思わぬ学生気分も味わえたようだ。参加を呼びかけるポスターの制作は、郡山女子短大生活芸術科の学生たちがボランティアで協力した。

各図書館は、見学に併せて特色ある資料を展示、公開した。日大ではレオナルド・ダ・ヴィンチに関する門外不出の貴重資料、郡山女子大では宮沢賢治コレクションと図書館に隣接する日本風俗美術館の資料、本学では「近代歯科学の曙」のテーマで、蘭学から近代歯科学の創設までの国内外の図書約28点を展示し、説明した。

本学展示資料中、Treatment of Malocclusion of the Teeth and Fractures of the Maxillae, Angle's System, 6th ed. by Edward H. Angle (1900年出版)は、当時の抜歯論争の結果、著者の意向を受けて回収され、今日では世界中にほとんど残存しない「幻の第6版」として、極めて貴重な資料であることが歯学部氷室教授のご教示で判明、注目された。

(安藤 勝)

私が薦める一冊の本

『樅ノ木は残った』

(山本周五郎著 新潮文庫)

十代の頃であったか、山本周五郎の一作品を読み、それをきっかけに立て続けに彼の作品を10編近く読んだ。これらの作品に共通して存在する人の心の崇高さに加え、弱さや人生の機微に深く感動したのを憶えている。先日、心に残る本は何かと考える機会があり、この本を再度読むことになった。

この『樅の木は残った』は、NHKの大河ドラマにもなり、このときも涙腺が緩みっぱなしだった。それでは山本周五郎の魅力は何なのか。主人公は、庶民感覚のぱっとしない人物が多い。それで余計に身近に感じてしまう。上、中、下巻まで読んで、いったいどこに「救い」があるのだろう、と疑問が湧く。強い権力と陰謀に屈してしまうのではないかと。そして伊達家にやっと光が差しこんでくのが最後の最後、伊達家は存続するものの、涌谷と甲斐は惨殺され、原田家は断絶する。仙台藩60万石の存続のために自暴自棄に陥ることなく自分の生涯をささげる。甲斐の子どもたちは父の意図を理解せずに切腹になった。お家取り潰しの芽が出たら、その火消しに人生を費やす。それも極限といえるまでの愚直な生き方で。主人公の原田がいつも正しいとは思わないが、「浅きを去って、深きにつき」、黙々と信念を貫きとおす姿に深く心を打たれる。

「あなたは今、如何に生きているのか」「真の正義とは何なのか」と、重い問いを鋭く要求する、歴史小説の大傑作と思う。エマーソンは「良書を読むのは良い人との交わりに似ている」と彼の著書の中で述べている。この作品はかなりの長編だが、一気に読んでしまった。まさしく良書の中の良書と思う。

(川島 功)

余 滴

飲み屋の一幅の書「夕焼け小焼け」

郡山の飲み屋さんに入るとき「夕焼け小焼けのあかとんぼ…」と仮名で書かれた一幅の書が掛かっているのを発見した。縦50cm横1m程もあるのか。見事な筆遣いで、何とも美しく美しい書であった。女将さんに「この書はすごいですね、誰が書かれたのですか？」と尋ねたら、「皆川雅舟という先生です」という。

奥羽大学に勤めて、学内のそこかしこにすばらしい書が掛かっているのに驚いた。創始者の故影山四郎先生の作だ。雅号は、姓の「影」に対して「晴」を「山」に対しては「川」を使い「晴川」と称した。学校法人晴川学舎の名称の源である。代表作に日展特選に輝いた「冲融」という書がある。書からして、何と大胆かつバランス感覚のいい方だろうと想像できる。郡山は芸術のにおいのする町かと勝手に思い、少々楽しくもなった。

勤め始めてまもなく、新潟に住んでいる友人夫妻と会う機会があった。越後湯沢の温泉宿で夕方から飲み始め、湯にでもつかって一泊して帰るのかと思ったら、翌日郡山に行かなければならぬので、今日はこれで失礼をするという。理由を尋ねたら、書を習っている先生の会があるからだという。書と郡山と聞けば、それは、ひょっとしたら「雅舟先生ですか」と尋ねたら、そうであるという。毎月手習いに新潟から出てくるのだそうだ。先生が未だ現役であることを知った。やはり郡山は書の芸術の都かと思いをあらたにした。

友人は故郷の佐渡で過ごした同級生である。私の父も定年間際に、同じ門下の先生に書を習っていたことがある。すでに書の教授の位（雅号：大雅）を得て手習いは7年前に止めた。最近、一人暮らしができず私の家族と生活するようになった。父に「雅舟先生を知ってるか」と聞いたら、「よく教えてもらった」と答えた。雅舟先生は父と同年代の84歳、郡山から佐渡まで出かけられて教えられてい

たことを知った。教育も熱心だった。

磐梯熱海に大学の保養所があり、看板に大胆な木彫りの「無垢苑」の文字が掛かっている。晴川先生の作である。先日、泊まりに行き、管理人さんから話を聞いた。晴川先生は熱で溶融した蠟燭を墨滴がわりに書を書かれ、固化する前に一気に力強く書き上げたという。出来上がりは、白黒の反転した文字になり、書に面白みがでる。一方、雅舟先生はしなやかで、勢いのある書をさらさらと書かれる。両先生の作風の違いを私は感じる。書の芸術の都・郡山はもう私の確信の域に到達したようだ。そして、書の芸術はここ奥羽大学から発信していたのではないだろうかと思え、今では考えるようになった。

居酒屋さんの「夕焼け小焼け」の一幅の書から、このとても不思議な縁を記さずにはいられなかった。そして、晴川先生が書の芸術を発信したこの場から、まだまだ新しいものを発信できるのではないかと思うのである。

(山本 正雅)



公開講座特集

9月29日(土)と10月13日(土)に開催された第16回奥羽大学公開講座の要旨を掲載する。

歯並びと健康 一歯科矯正の立場から一
歯学部教授 福井 和徳

矯正歯科治療について心理学者の仁平義明氏は、身体に手を加える「身体加工」の一つと分類している。身体加工には、刺青、ピアッシング、付爪、毛染め、化粧などがあり、最近では抵抗なく身体加工を行う社会的風潮があることを指摘している。矯正治療の動向は、機能面よりも外見を重視する方向にあり、新しい世代の身体加工に対する抵抗感との関連から矯正歯科治療への期待感が高まる傾向にある。受療者意識の変遷は、材料の進歩も関係している。歯の移動目標をあらかじめプログラムした装置や温度変化により硬さが変化する超弾性ワイヤーの出現で、矯正歯科治療の欠点であった痛み、口腔衛生および治療期間について大幅な改善が図られた。これにより、安全で快適な矯正治療を提供することも大きく関与しているようだ。

近年、呼吸器系疾患と不正咬合の関連が社会的にクローズアップされている。上顎前突(いわゆる出っ歯)には下顎後退症が多い。下顎後退症は睡眠時無呼吸症候群の原因の一つであり、成人での罹患は生命を脅かす重大な疾患である。現在、本学矯正歯科では不正咬合者へ呼吸器系のモニタリングを実施し、思春期に下顎の後退を修正することが外見だけでなく睡眠時無呼吸症候群の予防策となるかを検討中であり、その一部を紹介した。

最後に、部分的な矯正、第三大臼歯放置による咬合異常症例、デンタルインプラント治療前の矯正治療症例、重度歯周病で咬合崩壊した症例の包括的アプローチを供覧し、最新の成人矯正歯科治療の効果を概説した。

骨粗しょう症について

歯学部教授 浜田 節男

骨粗しょう症の「しょう」とは、漢字で「鬆」と書く。「鬆」はあらい、ゆるむ、みだれる、髪が乱れる、大根や牛蒡に時期がすぎてずがはいることを意味している。骨は私たちの身体を支える、脳や内臓器官を保護する、カルシウムやリンなどミネラルの貯蔵庫である。また造血機能がある。骨を溶解するのが破骨細胞、骨を再生するのが骨芽細胞である。この骨芽細胞と破骨細胞のバランスが保たれている場合には問題はない。閉経による女性ホルモンの分泌が低下すると、破骨細胞が優位となり、骨が溶解され骨粗しょう症の発症となる。

骨粗しょう症の危険因子は、加齢、早期閉経、極端なダイエット、偏食、運動不足、喫煙、日光照射不足、アルコールの多飲、ステロイドホルモンの長期投与、遺伝などがある。エストロゲンには乳腺発育など女性の身体の発育のほかにも、骨吸収抑制作用がある。閉経前は骨吸収と骨形成はイコールの状態に保たれている。閉経後はエストロゲンの分泌が低下するために、骨吸収抑制作用が低下し、骨吸収>骨形成の状態となり、骨粗しょう症になりやすくなる。高齢者が転倒すると大腿部などの骨折を引き起こし、寝たきりの原因となることから、問題視されている。

骨粗しょう症の予防には食事療法、運動療法、薬物療法がある。骨は運動による刺激がないと脆弱化する。日常生活の中で身体を動かすことから始め、1日30分程度の運動を持続することをすすめる。エストロゲン投与は、閉経後骨粗しょう症の治療薬として使用されていたが、子宮癌や乳癌などの発症率を増加させるため、使用されなくなっている。それに代わり塩酸ラロキシフェンが登場している。骨粗しょう症はなってしまってから治療するよりも、その前に骨量を十分に蓄えておき予防することが大切で、定期的に検査を受けることも心がける必要がある。

かむことと健康について

歯学部教授 鈴木 康生

今回のテーマである「かむことと健康について」は、対象が小児から成人・高齢者までの歯科的健康に関することである。講演では、始めに今回の講演のテーマと関連し、参考とした書籍を紹介して今後も関心を持ってもらえるよう一助とした。

私自身は専門が小児歯科学であることから、まず「ヒトの歯の発育・咬合の発達と社会生活」と題して、乳児から成人に至る間の乳歯・永久歯の萌出のステージと社会生活（家庭、幼稚園、小学校、中学校・高校）との関わりの“面白さ”について話した。引き続いて「乳幼児（小児）から成人までの口腔の発育・発達と健康」と題して口腔の発育と機能の面から、乳幼児期が「咀嚼機能の獲得〈学習〉」、乳歯列期が「咀嚼機能の獲得」、混合歯列期が「咀嚼機能の向上」の時期（特に第一大臼歯の萌出により咬合力が増加し、その意義は大きい）であり、永久歯列期が「咀嚼機能の完成」の時期にあたること、また成人・高齢期では「咀嚼機能の維持・回復」の時期となることを解説した。

つぎに「歯と口の働き」と題して“摂食機能・咀嚼機能・嚥下機能、言語機能、唾液の機能等”について説明し、特に唾液の働きとその重要性について解説した。最後に「かむことと健康」と題して、齋藤 滋先生の著書『よく噛んで食べる』からその内容を紹介し、よくかむことの八大効果、そしてかむことと健康については、“かむ力が歯をしっかり支えたり、脳への刺激となること”等について話した。講演の最後に、小児期からの口腔の健康が健全な心身の発育・発達を育成することから、「～好き嫌いなく、よく噛んで、おいしく楽しい食生活を～」をまとめの言葉とした。

健康は良き自然環境から

—環境保全に貢献するカビ達—

薬学部教授 野沢 幸平

地球上で知られている生物種はおよそ180万種。そのうち菌類は8万種という。しかし、未発見の菌はこれを遥かに凌ぐ数と考えられている。このように多くの生物種が自然の中で互いに助け合い競い合って多様な生活を営んでいるのである。私の専門は天然物化学、菌類が生産する新規抗真菌性物質の探索である。菌類はペニシリンなどの抗生物質をはじめ、多くの重要な生理活性物質を生産するが、未研究の菌はまだ多い。まさに、菌類は宝の山である。

今回は自然の森の維持に貢献している菌達を紹介する。東北地方は成熟した極相自然林がいたるところにある。その樹木にとって、切っても切れない関係にあるのが菌根菌である。キノコを作る菌の多くは菌根菌（外生菌根菌）であり、キノコはその実にあたる。外生菌根菌は木の根を覆って根を保護し、菌糸を伸ばして根圏を広げ、樹木が吸収できない状態の栄養物も土から吸収し、利用可能な状態として樹木に供給している。樹木はお礼に葉部で作った糖類をわたす。その供給量は光合成で作った10～20%と言われる。自然林の土壌中にはその他にも多くの土壌菌や細菌達、さらに土壌動物が暮し、協同して枯葉・枯れ枝等の有機物を植物や菌根菌達が吸収可能な状態になるよう働いている。

森は、多くの生き物が持ち場、持ち場で役割を精一杯表現して生活している場である。菌達もまた、森の一員として森の栄えに貢献しているのである。

同窓会

歯学部

新潟県支部の近況であります。2期生古館先生を要として、ガンバッテおります。この12月に母校より大野敬教授をお呼びし、講演会を開催します。年1回は行っております。

また、新潟県では、会員数の少ない愛知、神奈川、鶴見、北海道医療、松本、明海、と奥羽大の、7校で「空穂の会」をたちあげております。輪番で、年1回学術講演会と懇親会をとりおこなっています。来年度は奥羽大学が幹事校にあたり、準備しているところです。支部長古館先生には、高速を使って1時間半いや2時間の片道を通っていただき、頭の下がる思いです。我々後輩もお手伝いできるところは、分担できればいいなと思っております。

最後になりましたが、この6月に県支部の、要のひとりである（弥生会）3期生の西野先生が亡くなられました。本当に残念で、さびしい思いをいたしました。通夜、葬儀には、北は北海道、南は九州からと3期生にかけさんじていただき、ありがとうございました。（私が言うのもへん）ですが、故人のご人徳でしょう。その折3期生に接し同窓のよしみ、絆を感じ胸があつくなる思いでした。本当にありがとうございました。支部長以下全員御礼申し上げます。我々この同窓のよしみ、絆を、大切にしていこうと考えております。

他県支部の皆さんのご健闘をお祈りいたします。

（新潟県支部 小山 良郎）

文学部

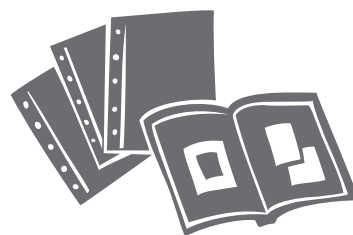
今年3月に最後の文学部生が卒業し、本同窓会にとっても新たなスタートを切った年でありました。そのスタートから早や9ヶ月、役員定数の見直し、財源問題等、いままでになかった新たな問題を少しずつ解消し、同時に、新生執行部の進むべき方向性も模索しつづけ、私たちは現在に至っています。

本年度も、役員個々の仕事の合間を縫って郡山に会し、近日総会を開催する予定です。今回の議題はなんといっても財源の確保と予算の見直しです。数年前から繰り越してきました貯蓄の使い方を、改めて全役員で協議していく考えです。

出来る限り、同窓会執行部の活動状況及び現況報告はホームページ上で紹介していきますので、皆さんからの今後の会へのご意見、ご要望等もお待ちしております。

メールアドレス：info@ohu-l.net

（同窓会長 松尾 毅）



同窓生のひろば



千葉 利昭
(歯学部13期生)

朝夕冷えこむ季節になりましたが、同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は間もなく開業5年目になり、仕事を肴にし鍋をつつきながら好きな酒を楽しんでおります。私は秋田市で開業しておりますが、私の住む秋田県には、この時期いろいろな鍋が出てまいります。全国的に有名なきりたんぼ鍋をはじめ、塩汁鍋(しょつつるなべ)があります。塩汁鍋は秋田で有名なハタハタを使用した魚醤の塩汁のだし汁をハタハタと共に堪能できる鍋です。きりたんぼ鍋に似ていますが、だまこ鍋という鍋もあります。だまこは炊いたご飯を潰してダンゴにしたもので、家庭で手軽に出来ます。鴨鍋の鴨も解禁の時期を向かえ、天然鴨鍋も味わうことが出来ます。男鹿半島には石焼鍋という鍋もあります。これは味噌仕立てのスープの中に魚貝類を入れて、焼いた石をいくつか入れてスープを沸騰させる豪快な鍋です。

皆様はどのような鍋がお好みでしょうか？

私の医院では現在奥羽大学卒業の勤務医3人と私の4人体制で仕事をしています。奥羽大学卒業の先生に共通する事は、向上心があり何事にも前向きに取り組むという点ではないでしょうか。通常治療からインプラント、審美治療などの自費治療、また往診治療まで、これから必要不可欠と思われるものに対し熱心に取り組んでいます。

私はこの原稿を書きながら、今晚は3人の先生と鍋を囲んで一杯やろうかと考えています。

同窓生の皆様とも機会があれば是非一緒に。



山口 安一
(英文科12期生)

奥羽大学卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私が卒業して早いものでもう4年が経ちます。時間の流れとは早いものです。

私の近況はといえば、卒業後地元宇都宮駅前のビジネスホテルに就職し、早いものでもう4年目です。ホテルのフロント部に所属しており、日々ご宿泊されるお客様やご宴会に来るお客様の接客業務をこなす毎日です。最近では駅前開発が進み、外資系の企業がホテルを買収しリニューアルオープンしたり、ぞくぞくと新しいホテルも建ったりしています。よりリーズナブルな価格でより上質なサービスを目指すライバルが増えております。その中の一部に私もいると考えると、ゾッとします。先々を考えて行動をとらなければ時代に埋もれていってしまうのだなあと感じます。

ホテルのフロントの男性は夜勤業務に携わり、大学生の頃の生活とは一変し、昼夜反対の生活が続いております。主に私どものお客様はビジネスで来る方が多いのですが、近くに工業団地が多いため、その関係の方々や他にもゴルフに行く方、遠方から結婚式に来るお客様など様々です。外国から来られるお客様も多く、たまにロビーを見て、ここは外国ではないかと錯覚することもあります。年齢層は高めで、私の両親の年、それ以上の年の方も来られます。入社1年目は毎日、上司に叱られ、フロント業務のノウハウを叩き込まれました。大学時代、私は言葉遣いや、礼儀とは無縁の生活を送っていたため大変な苦勞を強いられました。しかし、壁が高いほどやりがいはあるもので、気づけば4年目です。4年前、就職活動をした時はまさかホテルマンになるとは思いもしませんでした。そしてやはり思うのが、大学時代にもっともっと勉学に勤しんでいればと悔いております。あの頃

はもっぱらサークル活動にすべての力を注いでいたものですから。しかしその経験があって今の自分があるわけで良い経験になったと思っています。

就職して思ったことは、やはりお金を稼ぐということは大変だということです。どの会社でもそうでしょうが本当にいろいろな人がいるものです。そのなかで適切なコミュニケーションをとり、利益追求やひとつの目標に向かっていくのは容易なことではありません。しかし、大学の同級の仲間たちも職種、環境は違いますがそれぞれのフィールドでがんばっているかと思うと負けてはいられません。たまに会った時、それぞれの話を肴にお酒を飲むのが楽しみです。

最後に奥羽大学と皆様のますますのご発展とご健勝をお祈りしております。



新任教授紹介



歯学部 生体材料学

川島 功

平成19年10月1日付で本学歯学部教員に採用され、生体材料学講座の教授を拝命いたしました。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。次第です。

自然あふれる整備されたキャンパスと恵まれた研究設備そして若きスタッフの中で、仕事ができることを大変嬉しく思います。簡単に私の自己紹介をさせていただきます。生まれ育ったところは分福茶釜で有名な茂林寺の存する群馬県館林市です。学生時代は金属工学を学びました。北海道立工業試験場を経て北海道医療大学歯学部歯科理工学講座では二十数年間にわたり歯科用貴金属合金の強度と組織の関係、特に金銀パラジウム合金について耐食性および硬さの低下をもたらす粒界反応の抑制機構の解明が主なテーマでした。時代とともに研究対象は大きく変遷を遂げ、生体組織と人工材料との親和性やこれらのハイブリッド的な材料を扱う境界領域の研究が重要視されております。歯科用インプラントの新規材料の開発に関しても、基礎講座と臨床講座との共同研究がなされ、広範な知識と技術を総結集することによって初めて結実するものです。

学術研究を進める一方で、それ以上に力を入れて奮闘しなければならないのが学生教育です。国公立を問わず、大学の取り巻く社会的環境は、この10年余りで大きな変化をとげつつあります。いわゆる大学冬の時代の到来です。この難しい状況に立ち向かうべく、全学的動向の歩調に合わせて努力していきたいと考えます。生体材料学分野の教育を可能な限り充実させ、結果として魅力ある奥羽大学の更なる発展に、微力ではありますが貢献させていただきたいと決意いたしております。どうかよろしく願いいたします。



歯学部 歯科保存学
高橋 慶壮

平成19年10月1日付をもちまして本学歯学部の歯科保存学講座教授を拝命し、歯周病学分野担当として着任致しました。

平成16年4月の旧国立大学の独立行政法人化の影響が徐々に顕在化し、大学を取り巻く環境は、“競争の時代に突入”した感があります。一方、私学は「建学の精神」に基づき、矢継ぎ早に対応策を打ち出しています。歯学部は国家試験合格を第一の目標にした学部でもあり、今後とも有効でかつ効率的な教育方法を模索する必要があります。大学院では、数校の歯学部あるいは歯科大学で、臨床専門医コースを発足させています。従来の基礎的研究中心の大学院とは趣を異にした臨床を重視した大学院です。これも興味深いチャレンジだと思います。

私は母校の岡山大学で歯内療法学と歯周病学を担当する教室で約11年間学びました。その間2年半、英国グラスゴー大学で研究生生活を経験しました。その後、他校へ転出して歯内療法学および歯周病学講座で勤務し、口腔インプラント治療も勉強しました。

歯周病学領域では、研究と臨床の軸足が、「歯周医学」「口腔インプラント治療」および「歯周組織再生療法」へとシフトしています。松尾芭蕉が『奥の細道』に記した「不易流行」の考えにもあるように、時代の変化を捉えつつ歯周病学における不変の真理を探求したいと思います。

文部科学大臣と厚生労働大臣の合意事項として、歯学部学生定員のなお一層の削減が挙げられていますので、今後とも、学部、大学院を含めた大学改革が続くと思われま。組織が競争的環境の中で生き残るために最も必要なものは、優秀な人材だと思います。本学の発展のために微力ながら精進するとともに

に、有為なる人材の育成を心掛け職務に励む所存ですので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



歯学部 歯科保存学
木村 裕一

このたび平成19年10月1日付けで奥羽大学歯学部歯科保存学講座歯内療法学分野に赴任することになりました。

私の略歴は、昭和60年に九州大学歯学部を卒業し、平成元年に九州大学大学院を修了してからしばらくの間、九州大学で勤務していましたが、平成6年から2年間カリフォルニア大学アーバイン校にレーザーの研究のため留学しました。帰国後、昭和大学歯学部歯内療法学教室（現齲蝕・歯内治療学教室）に11年半の間、講師、助教授として勤務していました。

研究テーマに関しましては、各種レーザーの歯科保存学領域への応用に関することを主に行ってききましたが、臨床ではニッケル・チタンファイルの臨床応用や3DX®を併用した歯科用実体顕微鏡を使用した治療、例えば副根管の探索、リーマーの破折片除去、根尖切除術などを得意分野としてきました。

教育に関しましては、OSCEやPBLなどを主に行ってききましたが、これからは「人間性豊かな歯科医師を育成し、地域の歯科医療の発展と向上に貢献する」という奥羽大学の教育理念に寄与できるように、つまり歯科医師としての人間形成ができ、複雑な社会環境に対応できるような人間力をつける教育を心がけていくつもりです。特に大学院教育については、大学の将来を担う人材の育成、そして地域歯科医療の中核を担う人材の育成という意味において大変重要なことだと考えています。今まで培ってきた経験を生かして研究、臨床、大学や大学院教育の発展に微力ながらお役に立ちたいと思っております。幸いこちらの大学では歯科保存学講座という大講

座制ですので、そのメリットを生かして、保存修復学や歯周病学分野の先生方と緊密に連携しながら、熱意を持って行っていきたいと考えています。

今後は従来に増してより一層の努力を致す所存でございますので、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

人 事

〈退 職〉

奥秋 晟 教 授 歯 学 部 9月19日付
岩崎みどり 講 師 歯 学 部 9月30日付

〈定 年〉

長山 克也 教 授 歯 学 部 9月20日付
菅野 忠夫 放射線技師 附 属 病 院 10月13日付

〈任 用〉

川島 功 教 授 歯 学 部 10月1日付
生体材料学
高橋 慶壮 “ 歯 学 部 “
歯科保存学
木村 裕一 “ “ “

〈異 動〉

影山 利夫 医事課長 病院事務部 11月1日付
白土 孝 庶務課長 “ “
渡辺 克己 学生係長 学 事 部 “
(歯学部担当)

慶 弔

〈結 婚〉

おめでとうございます。

○勝山 壮 薬 学 部 助 手 8月17日
○築館 勇樹 歯 学 部 講 師 10月10日
○本田 りか 附 属 病 院 歯 科 衛 生 士 11月3日
(旧姓 福田)

〈訃 報〉

謹んでお悔やみ申し上げます。

●歯学部 奥秋 晟 (77歳) 9月19日
●歯学部 伊藤 一三
妻 伊藤 秀子 殿 (52歳) 9月24日

●歯学部 松山 仁昭
祖父 伊藤 貞登 殿 (89歳) 9月24日
●薬学部 中楯 奨
祖母 中楯 アキ 殿 (95歳) 10月4日
●総務部 相楽 隆勇
実父 相楽 文市 殿 (93歳) 10月14日
●薬学部 佐藤 博泰
実父 佐藤 忠平 殿 (77歳) 10月27日
●附属病院 阿部 友美
祖母 阿部 チヨ 殿 (73歳) 10月30日
●薬学部 長嶋 友美
祖母 鈴木富美江 殿 (86歳) 11月6日



郡山自転車ロマン紀行 (連載)

〈第4回〉

松尾芭蕉 in Koriyama

いまから318年前、郡山を通った一人の風狂人がいた。漂白の思い止みがたく、再び帰れるかどうか分からない奥州への旅である。深川の草庵をたたみ、千住で舟から上がり、親しい人たちと別離の涙を流したのは、元禄2年3月27日のこと。今の暦でいえば5月16日。よわいはすでに46。その人の名は言わずと知れた松尾芭蕉、お供は門人の河合曾良である。白河の関を越え、阿武隈川を渡ると、左に磐梯山、右に岩城、相馬、三春の山なみが見える。いよいよ奥州路である。

さて、今回は『奥の細道』と曾良の『随行日記』にスポットを当てて、彼らが歩いた「郡山」をたどってみよう。『奥の細道』では郡山を次のように描写している。

「等窮の家を出て、五里ばかり、檜皮（日和田）の宿場を出はずれてすぐにあさか山がある。道路のすぐ近くである。この辺には沼が多い。かつみを刈るころも、もうそう遠いことではないから、きっとこの辺で見つかるに違いないと、どの草を花がつみというのかと、土地の人々に尋ねまわったが、一向に知っているものがない。沼のほとりをさがし歩き、人に問い、「かつみ、かつみ」と尋ねまわっ

ているうちに、日は早くも山の端に傾いてしまった。しかたなく、二本松から道を右に折れ、黒塚の岩屋をざっと見て、福島に行き泊まった」(注1)

「郡山」の記述はたったのこれだけだが、曾良の日記がこの間の行動を詳細に補っている。須賀川の相楽等窮の家で7泊を重ねたのち、陽暦の6月16日、郡山へ入る。守山の田村神社（当時は大元明寺）を参詣し、雪村の歌仙絵を鑑賞したのち、金屋で阿武隈川を舟で渡る。現在の日本大学工学部の近くに渡し場があったのであろう。対岸は日出山、小原田地区である。日暮れ前に郡山へ入り、宿をとる。曾良の日記には「宿ムサカリシ」とある。あまり上等ではない宿だったのだろうか。現在、国道4号線とうすい前のなかまち夢通りの中間、太田記念病院辺りを通称「芭蕉通り」と言っているが、多分この辺の宿か。ちなみに当時の郡山の人口は1,200人くらいだという。

翌日は快晴、早朝に宿を出る。富久山町の日吉神社や日和田の蛇骨地藏堂は街道筋だから、立ち寄ったに違いない。

そここの坂道では、奥州街道の松風を受けながら、一息ついたことだろう。ウグイスやカッコウの声を友として、二本松の方へと歩を進めて行く。



蛇骨地藏堂の三十三観音



安積山公園

日和田の安積山では「花かつみ」を尋ね歩いている。いま安積山公園の案内板には、次のような『古今和歌集』の歌が記されている。

「みちのくの安積の沼の花かつみかつ見る人に恋やわたらん」〔陸奥の安積の沼の花かつみじゃないが、かつ見ている（＝一方ではこうして逢っている）人に、一方では同時に恋い続けるのだろうか〕^{（注2）}

芭蕉は、『万葉集』や『古今和歌集』などで古くから歌われている「花かつみ」とはどんな花かを見たかったのであろう。昭和49年に郡山の花に指定されたアヤメ科の「ヒメシャカ」がそれである。

ところで曾良の日記に、日和田に安積山と山ノ井清水があり、片平にも安積山（額取山）と山ノ井清水があるのを不審に思うとある。私も以前からそのわけを知りたいと思い文献を探し、また人にも尋ねてみたが、不明である。

福島へは「日いまだ少し残る」時間に到着している。

*注1 井本農一校注・訳『松尾芭蕉集』（日本古典文学全集）小学館

注2 竹岡正夫著『古今和歌集全評釈 下』右文書院

（図書館長 安藤 勝）

<委員会からのお知らせ>

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先／奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報116号（通算No.241）平成19年11月15日発行

発行 奥羽大学
学報編集委員会
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp